



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

2015年以降のESD展開： ESD世界会議の成果を踏まえて

2015年3月14日

竹本 和彦

国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

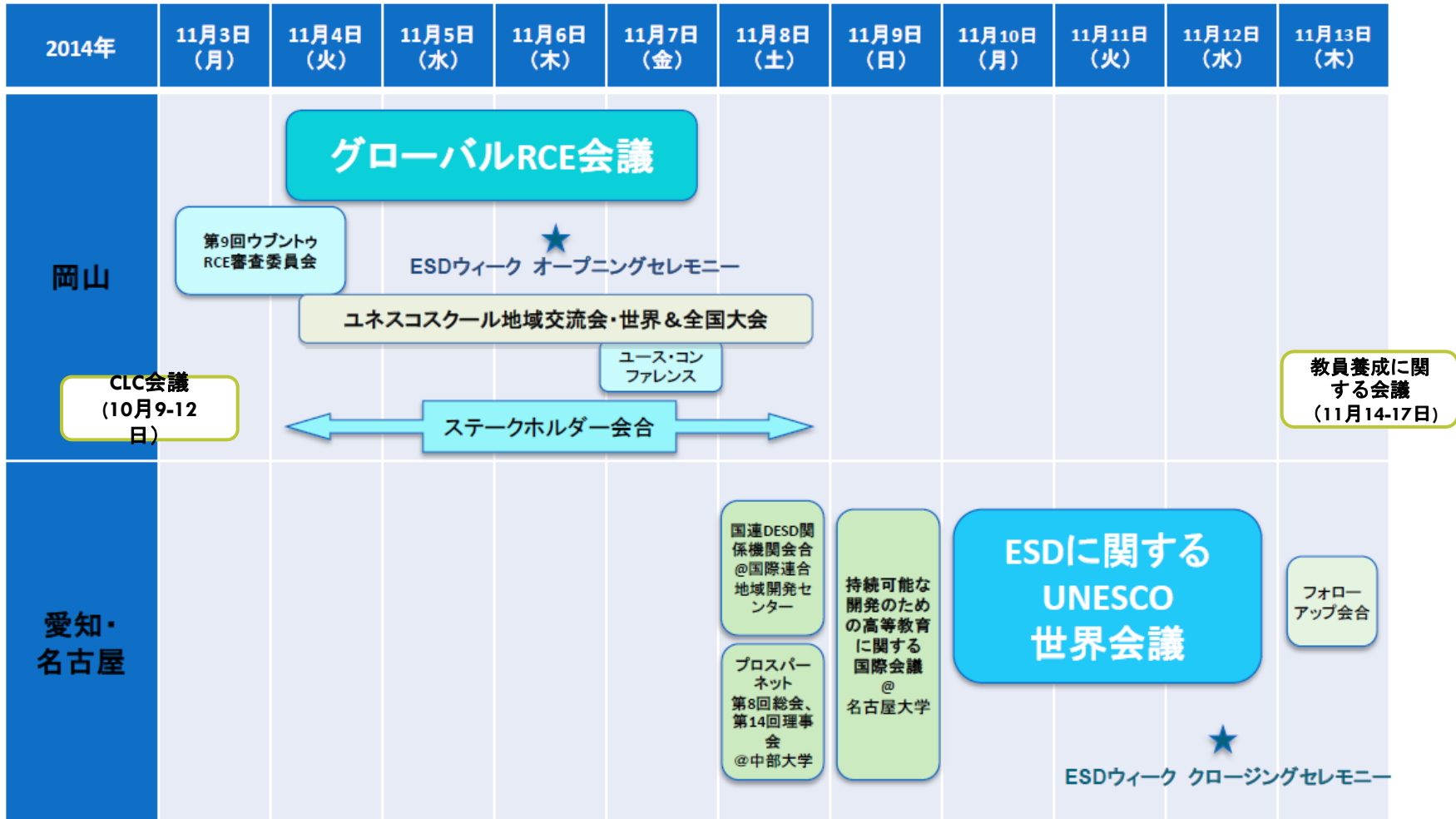
所長

目次

1. ESD世界会議の概要
2. 2015年以降のESD：
国連ESDの10年からグローバル・
アクション・プログラム（GAP）へ
3. 今後の展望：持続可能な開発目標
（SDGs）とESDの将来展開

1 ESD世界会議の概要

2014 ESD Week



UNESCO World Conference on ESD

ESDに関するユネスコ世界会議

日時：2014年11月10－12日

会場：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

主催：ユネスコ及び日本政府

➤ 153か国・地域から1,091名が参加

目的:

- 1.10年間の成果を総括
- 2.すべての人にとってより良い未来を築くための教育の新たな方向付け
- 3.持続可能な開発のための行動促進
- 4.ポスト2014のためのESDアジェンダの策定（ポスト2014年のESDプログラム枠組みの実践）

プログラム:

- 上記4つの全体会合及びハイレベル円卓会議
- 上記4つをクラスターとする30超のワークショップ
- サイド・イベント
- ポスター・ブース展示

ESDに関する世界会議の成果

- 『あいち・なごや宣言』の採択
 - 岡山でのステークホルダー会合およびESD世界会議の議論を踏まえ、全会一致で採択
 - ESDを主流化し、ポスト2015年アジェンダにESDを取り入れるため、直ちに行動することを呼びかける
- 「国連ESDの10年」最終報告書の発表
- 「ユネスコ／日本ESD賞」創設の正式発表
- 「グローバル・アクション・プログラム（GAP）」の正式発足
 - 80ヶ国から363のコミットメントがUNESCOへ提出される（2014年11月現在）
 - 「GAPロードマップ」の発表
GAPの目標、優先行動分野、実施における戦略と体制、評価の仕組み等について紹介

第9回グローバルRCE会議

日時：2014年11月4-7日

場所：岡山市 岡山コンベンションセンター

主催：国連大学サステナビリティ高等研究所、岡山ESD 推進協議会、
岡山市

- ESDに関するユネスコ国際会議のステークホルダー会議として位置づけ
- 47か国・地域（68RCE）から272名が参加

目的:

- ❖ これまでの10年間におけるRCE活動の成果と課題を総括
- ❖ 「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」の実施に結びつく、2015年以降のRCEの活動についてアジェンダを策定

第9回グローバルRCE会議



(写真提供：岡山市)

第9回グローバルRCE会議



(写真提供：岡山市)

「2014年以降のRCEとESDに関する岡山宣言」

Okayama Declaration on RCEs and ESD Beyond 2014

- 「国連ESDの10年」以降もESD活動を推進していく。
- グローバル・アクション・プログラム（GAP）における5つの優先行動分野において主導的役割を果たす。
- 国連における「持続可能な開発目標（SDGs）」の実施に貢献する。
- RCE活動の更なる充実、質の向上に努める。

国連ESDの10年最終報告書「Shaping the Future We Want」

所見と動向：ESDの10年を振り返って

ESDは持続可能な開発の実現への鍵

1. 教育システムにおける持続可能性に関する課題への取り組みの増加
2. 持続可能な開発アジェンダと教育アジェンダの融合

ステークホルダーの関わり的重要性

3. (組織的な変化をもたらす) 政治的リーダーシップの重要性
4. マルチステークホルダーにおける連携と協力の効果
5. 地域コミュニティにおけるESDの拡大

教育における革新を活性化

6. 機関包括的なアプローチによるESD実践の有効性
7. 対話的で学習者主導型教育の促進

あらゆるレベルと分野の教育におけるESDの普及

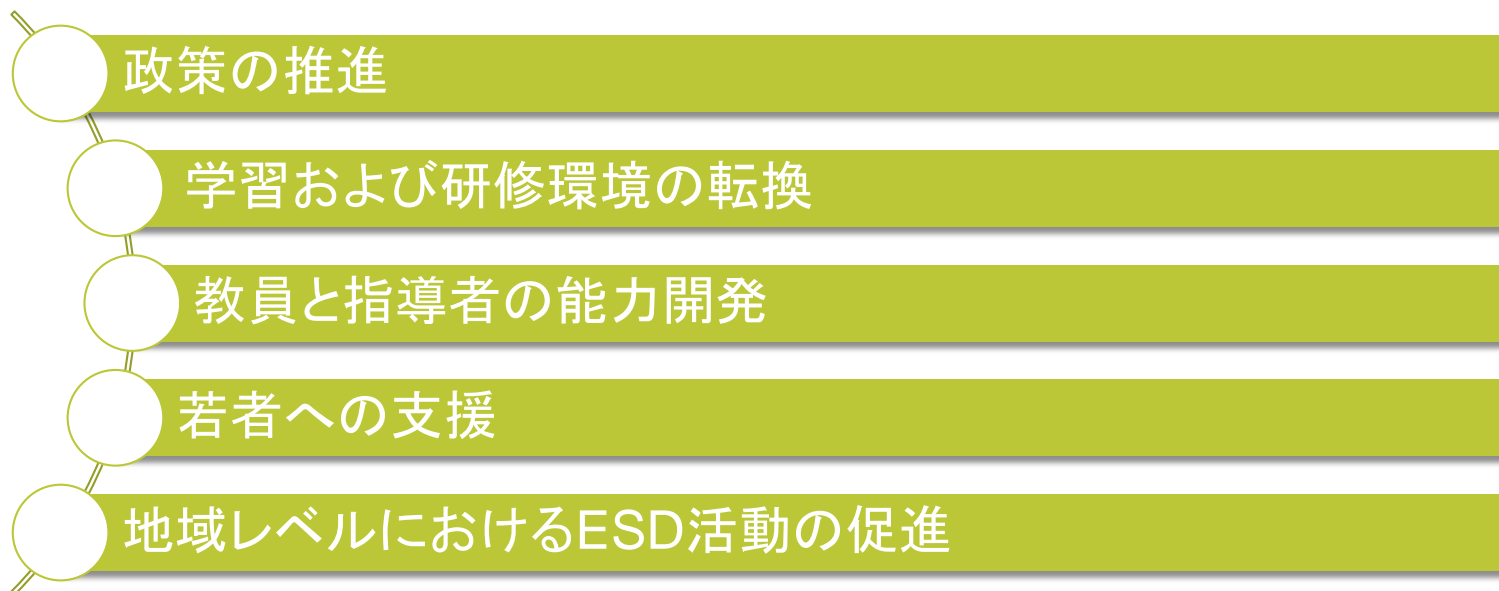
8. フォーマル教育へのESDの統合
9. ノンフォーマル・インフォーマルな現場におけるESD実践の拡大
10. 技術・職業訓練教育と研修における持続可能な開発の促進

2015年以降のESDグローバル・アクション・プログラム Global Action Programme (GAP) on ESD

- ◆ 2014年11月の「ESDに関する世界会議」において正式に発足
- ◆ 同年12月の第69回国連総会にて採択

目的: 持続可能な開発をさらに進展させるために、教育と学びのあらゆるレベル・分野において行動を起こし、スケールアップを図る

GAP 優先行動分野



GAP 優先行動分野

GAP Priority Action Areas

政策の推進

- ESDを教育と持続可能な開発に関する国際・国内政策へ反映
- 民間セクター、学术界、地域コミュニティや市民社会を巻き込んだ参加型プロセスによる政策策定

学習および研修 環境の転換

- あらゆる学習・研修の場におけるESDの機関包括的アプローチの促進
- 教授法や方法論の再方向付け、持続可能なキャンパスや施設管理の導入、組織全体の運営方針やガバナンス体制の変換

教員と指導者の 能力開発

- 教員養成及び現職教員研修、就業前教育、初等・中等教育、職業訓練機関へのESDの組み入れ
- 高等教育機関の教員養成過程へのESDの組み入れ
- 民間企業の社員研修、専門的知識養成プログラムへのサステイナビリティ概念の組み入れ

若者への支援

- 学習とネットワーキングのための情報及び通信技術を活用できる機会の提供
- ESDに関するE-ラーニング、持続可能な消費やライフスタイルに関する意見や行動を共有できるオンライン・プラットフォームの充実

地域レベルに おける ESD活動の促進

- 地域におけるマルチステークホルダーのネットワークの強化、学習と連携のプラットフォームとしての質の向上
- より多くの新しいステークホルダーの参加を促進
- 地方自治体における持続可能な学習の機会の拡大・強化

2015年以降のESD:GAP実施のためのロードマップ

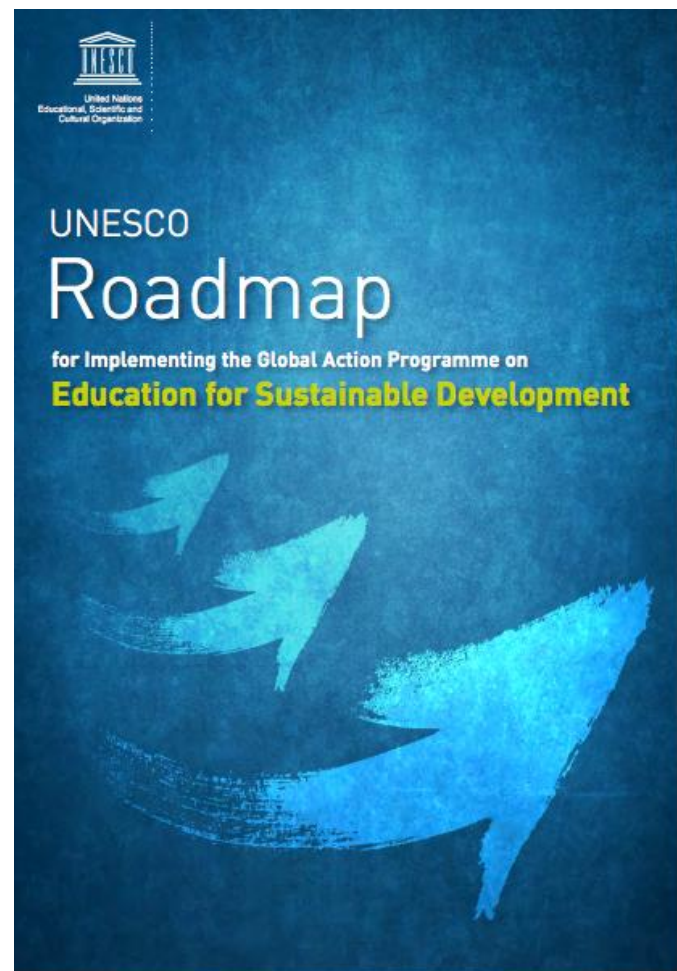
戦略:

1. GAPコミットメントを通じた新たなモメンタム（推進力）の構築
2. パートナーシップの活用
3. 新たなグローバル・コミュニティの形成・推進
 - ・ グローバル・フォーラム
 - ・ クリアリングハウス(情報共有の場)
4. 優良事例の紹介
 - ・ ユネスコ・ジャパンESD賞

2015年の予定:

GAP実施メカニズムの構築

- ・ グローバル評価枠組みの策定
- ・ パートナー・ネットワークの形成
- ・ オンライン・クリアリングハウスの立ち上げ



持続可能な開発目標（SDGs）

1. 持続可能な開発の3つの側面（経済、社会、環境）に統合的に対応し、先進国・途上国を対象とした普遍的な目標。
2. SDGsの策定プロセスについて、政府間交渉プロセスの立ち上げや専門家で構成されるオープンワーキンググループ（OWG）の設置に合意した。2013年1月に設置され、2014年2月までに8度開催。2014年3月から7月にかけてさらに5回開催予定。
3. 2015年に目標期限が来るミレニアム開発目標（MDGs）の後継（ポストMDGs）と統合的に統合されるべき。
4. 国連総会の下に政府間会合を設置し、2014年までに持続可能な資金戦略を検討することに合意。2013年6月に設置され、8月に第1回会合を開催。

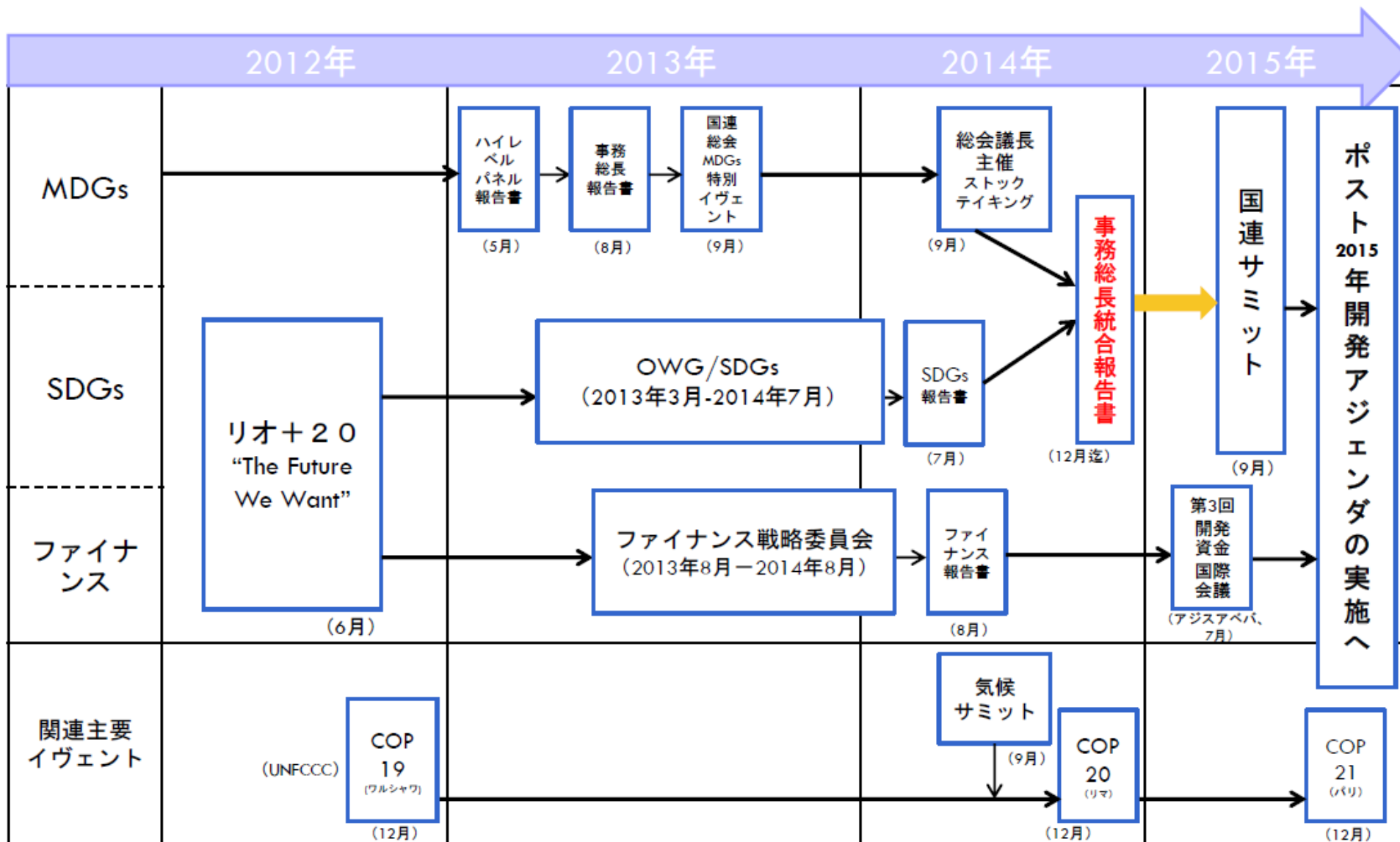
SDGsの直面する3つのチャレンジ

1. MDGsの残された課題
2. 地球システムの限界からもたらされる新たな課題
(気候変動の植生・健康への影響など)
 - ❑ 問題の相互関係・相互作用（規模や範囲を超えて）：ある国での原因が他の国での影響に
3. 多様なステークホルダー
 - ❑ 多様な課題解決
 - ❑ 新たな考え・アイデア活用
 - ❑ 新たなネットワーク



David Griggs, Mark Stafford-Smith, Owen Gaffney, Johan Rockstrom, Marcus C Ohman, Priya Shyamsundar, Will Steffen, Gisbert Glaser, Norichika Kanie and Ian Noble, 'Sustainable Development Goals for People and Planet.' *Nature* (Vol 495, 21 March 2013).

ポスト2015開発アジェンダ策定プロセス



(外務省資料より作成)

Open Working Group (OWG) によるSDG (案)

[国連総会に対する報告書 (2014年7月) より]

2030年達成目標案

1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困の撲滅
2. 飢餓の撲滅、食糧安全保障およびすべての人々の十分な栄養摂取の実現、持続可能な農業の促進
3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活の実現
4. **すべての人々への、公平かつ包括的な質の高い教育および生涯学習の機会の提供**
5. あらゆる場所におけるジェンダー平等ならびに女性および女子のエンパワーメントの実現
6. 持続可能な世界に向けた、すべての人々の水と衛生の確保
7. すべての人々の、安価かつ持続可能で信頼できる現代的なエネルギーサービスへのアクセスの確保
8. 強力かつ包括的で持続可能な経済成長およびすべての人々のディーセント・ワーク (適切な雇用) の促進
9. 持続可能な産業化の促進
10. 各国内および各国間の不平等の是正
11. 包括的かつ安全で持続可能な都市および人間居住の構築
12. 持続可能な生産消費形態の促進
13. 気候変動に対応するためのあらゆるレベルにおける行動の促進
14. 海洋資源および海洋の、保全および持続可能な利用の実現
15. 陸域生態系の保護および回復、あらゆる生物多様性の損失の阻止
16. 平和で包括的な社会、法の支配および有効かつ有用な制度の実現
17. 持続可能な開発のための実施手段およびグローバルパートナーシップの強化・向上

今後の展望

1. 節目としての2015年

- ミレニアム開発目標(MDGs)目標達成年
- 万人のための教育(EFA: Education for All)の目標達成年
- 「持続可能な開発目標(SDGs)」の策定と実施

2. 国連ESDの10年(DES D)からグローバル・アクション・プログラム(GAP)へ

- RCEをはじめとする地域コミュニティのESD活動は、GAP実施の中核的役割を果たしていく。

3. 岡山に期待される役割

- 多様なステークホルダー(岡山市、公民館、大学、学校、市民団体、地元企業、若者、等)がつながるネットワークの優良モデルとして世界をリードしていく役割が期待されている。

ご清聴ありがとうございました。

UNU-IAS のホームページもご覧ください
(<http://ias.unu.edu/en/>)